

先週の朝礼では、野口英世さんの話と、遠足が移動した話をしました。

今日は、うまくいけば学校がお休みのはずでした。そう、土曜日の第七十一回プレデーが中止となったために代休とはならず、普通授業。誰ですか、そこでむくれている人は！  
 気持ちはよく分かりません。二十二日の土曜日、立教女学院さんにお邪魔して、年に一度の「七夕」のような「女子との出合いの場」が、もろくも崩れ去ってしまったのですから、ガツカリする人がいるのも当たり前ですね。

立教小学校は、今から七十四年前にできたので、今の一年生は、七十四回生という訳です。先週土曜日に実施の予定だった、幻のプレデーは、「第七十一回」。はてな？と思う人がいるのではないのでしょうか。

実は、立教女学院さんとのプレデーは、第二代校長の有賀先生が発案し、三回生が入学した時から始まったので七十一回目という訳なのです。

この当時は、「合同運動会」と呼んでいましたが、秋の運動会と混同しないように、一九五五（昭和三十）年から、「プレデー」と呼ぶようになりました。

今は、立教女学院と立教小学校をプレデー会場として交互に使用し、現地集合・現地解散で行っています。

第一回合同運動会（プレデー）当日は、

貸し切りバス十二台で立教女学院さんに出かけたのだそうです。その当時は二クラス編成。

立教小学校が三クラス編成になるのは、十二回生から。第一回合同運動会が行われた年は、三回生までしかない年。だから、二クラス三学年で、子どものバスの台数は2×3  
 6 保護者の皆さまのバスが六台で、合計十二台ということなのでしょう。結構派手。

今なら3×6×2=36という訳です。大型バス一台は、大体十二メートル。それが36台も続くと、バスがピタリくっついていたら、縦に積み上げたとしたら、東京タワーよりも高い！大体百四十四階建てのビル並みの高さ。ムムムッ。百四十四階建てのビルが道路を横になって移動していたとしたら、迷惑ですよ。という訳で、今は現地集合・現地解散なのでしょう。



今から十年以上も前の話。本校の五年生のある男の子が、プレデーの日に立教女学院のお嬢さんたちとフォークダンスを踊りました。その時その男の子は、あるお嬢さんにブンブン振り回されてダンスが終わったのだそうです。悔しくてくやしくて…。その日から、その男の子は毎日家に帰ると一リットルの牛乳を飲むようにし、体を大きくすることに励

んだのだそうです。

一年後。相まみえたお嬢さんをブンブン振り回そうと、自信を持って臨んだダンスでしたが、その男の子よりさらに大きくなっていったお嬢さんに、ブンブン振り回されて、小学校生活最後のプレデーが終了したのだそうです。泣いていましたな、その男の子。

そもそもレディを、ブンブン振り回そうなんていう魂胆がいません。それに、統計上小学校五、六年生では男子より女子の体格が上回るはずなのです。もともと、十三才以降は、男子の体格が女子を上回り、年齢が進むにつれて、男女の体格差の開きは次第に大きくなるようですが。

さて、ギリシア語で「アレテー」という言葉があります。通常「勇気」と訳される言葉ですが、広い意味では、「優れていること」「立派さ」を指しているのだそうです。

「優れる」の「優」は、「優しい」の「優」。優れた人は、優しい人。優しい人は、人を憂える（心配する）ことのできる人。人を憂えるのには、その人に余裕や強さがないとダメ。その余裕や強さを「勇気」と言うのであって、人をブンブン振り回すようなことは勇気とは言わないのです。本物の「勇気」を持った人が立派な人という訳です。

立教生諸君、どうか真の勇気「アレテー」を持った人間に成長してくださいな。

（立教小学校校長 田代 正行）